

【トップインタビュー】 高柳哲男・ちば国際コンベンションビューロー代表理事

15/12/22 08:45 NG027

◇五輪契機に世界にちばPR

千葉県や千葉市などが出資する公益財団法人「ちば国際コンベンションビューロー」は、国際会議などのMICE誘致・開催や国際交流促進の中核を担う。2020年東京五輪・パラリンピック開催決定を契機に県内の五輪体制づくりにも着手し、高柳哲男代表理事（たかやなぎ・てつお=66）は「世界に千葉の名前を売り込む絶好のチャンス。MICEの充実強化という点からも格好の機会をもたらしてくれる」と力を込める。

ビューローは14年度、県による補助金増額の後押しを受け、MICE事業で国際ビジネス開発部門を増員。企業の報奨・研修旅行を中心とした事業拡充により、同年度の誘致件数、経済波及効果はいずれも前年度比で7割以上増え、「期待していたような伸びを示している」と手応えを語る。今年4月には、企業旅行の規模に応じて催し物、記念品などを提供する支援プログラムを開始し、タイの保険会社による1500人規模のディナー会を幕張メッセで迎え入れるなど、従来の国際会議、展示会に加えて一層、誘致を強化する。

こうした積極的な取り組みが評価され、千葉県と千葉市は6月、観光庁の「グローバルMICE強化都市」に選ばれた。専門家の助言の下、戦略策定に取り組んでおり、「成田、羽田の両方から非常に近く、交通アクセスは十分通用する」と強調。他方、「国際的に知名度が低い」ことなどを課題に挙げ、東京五輪・パラリンピックの県内開催によるPR効果に期待する。

MICEを誘致しながら、国際交流の促進にも力を入れ、県内在住の10万人を超える外国人向けにボランティアによる語学支援、文化体験を提供している。五輪の県内開催に備え、国際交流で培ったボランティア育成のノウハウを生かし、11月から通訳の養成講座を開講。英語、中国語の2言語で、定員をはるかに超える応募が殺到し、「県民の意識が高く、関心が高まっているのはありがたい。数を増やす方向で県と検討したい」と定員拡大にも前向きだ。

五輪に向けた体制づくりでは、プレ大会、キャンプ誘致情報の一元化、スポーツツーリズムの促進のため、6月に県の委託事業として「スポーツコンシェルジュ」を新設。事業開始早々に18年女子ソフトボール世界選手権誘致に名乗りを上げ、「最初の大仕事となった」開催を勝ち取った。ソフトボールが五輪の追加種目に決まれば、選手権が五輪予選を兼ねる見込みで、「五輪本番も千葉でという可能性が非常に高まってきており、ぜひそうなってほしい」と期待を寄せる。

訪日外国人数の増加や五輪開催決定を背景に、県内で宿泊施設の増築やボランティア育成が活発化することで、「社会インフラやおもてなしの底上げが図れ、MICEを誘致していく上でも大きい」。県の国際交流機関として、「五輪を契機にボランティアの土壌ができ、多文化共生社会づくりの一環として大きなレガシーとなる。民間交流でさまざまな国、文化と交流を深めていくところにわれわれの使命がある」と決意を新たに示した。

〔横顔〕茨城県稲敷市出身。千葉県企業庁旧管理部長、ラジオ局「ベイエフエム」役員などを経て、13年6月から現職。趣味はゴルフをはじめスポーツ全般と映画鑑賞。

〔ホームページ〕<http://www.ccb.or.jp/>

（千葉支局・濱田理央）（了）（2015年12月22日配信）



高柳哲男・ちば国際コンベンションビューロー代表理事